

講義名	経営学入門(人間社会学部：2年生以上)			授業形態	
担当教員	瀧本 隆弘	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

本講義の主題は、経営学の基本的な知識を提供することにある。専門科目を履修する前に知っているべき基本的な知識が学習できる。講義では、抽象的な解説にとどまらず、できるだけ事例を紹介しながら、ビジネスの世界で起きている具体的な諸問題を経営学の用語を使って解説していく。講義ではテキストや講義資料を使用するので、授業の予習や復習が行いやすいと思われる。また、これらは課題提出やテスト準備の際にも重要な役割を果たすので、学習の道標と考えて欲しい。

到達目標

1. 経営学の基礎知識・基礎用語を学習することによって、企業の動向に迫る新旧の記事を理解できるようになる。
2. 経営学で扱う問題（守備範囲）を理解でき、専門分野への関心が持てるようになる。
3. 経営学の専門用語を使って、簡単なレポートを作成できるようになる。

提出課題

1. 講義の中頃に、中間レポートの提出を求める可能性がある。ただし、下記の課題提出の回数が増えた場合(5回以上)は、実施しない。
2. 簡単な課題提出を求める。(4回・月1回程度)
講義内容に沿ったテーマで、講義の復習となるようなテーマが選択される。講義はケースを使って進められるので、正解を求めるのではなく、問題解決型の思考方法で課題を作成することが求められる。
3. 定期試験はマークシート方式のテストで実施する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題の解説については、クラス全体に向けて行う。
履修者が多い場合は、講評はキャンパスクロスを通じて実施する。
履修者が30名以下の場合は、流科ポータルの自々のメールアドレスへ返信する。

評価の基準

以下の総合評価を行う。
定期テスト、試験実施（60％）
後期中頃の中間レポート（20％）
数回の課題提出（20％）
ただし、課題提出の回数が多くなった場合（5回以上）は 中間レポートは実施せず
課題提出の比率を40％にする
出欠調査は行わないので、出席点はない。
講義形式の変更があった場合でも成績評価方法は変更しない

履修にあたっての注意・助言他

- 経営学入門は時間割上にいくつか配置されています。
各々担当教員が違い、履修上は別科目です。
履修した科目と時間を確認の上、履修に出席すること。
1. この講義は、講義中に提示されるパワーポイントのスライドを中心に、テキストは特に指示しない。
講義内容のスライドはすべてキャンパスクロスからダウンロードできるようにしてある。スライドのアップやダウンロードのタイミングは講義中に指示する。プリント資料なども、必要なのはすべてダウンロードするようにしてある。こちらからプリント配布は一切行わない。講義開始までにダウンロードの方法を確認しておくこと。
 2. 出席調査は行わず、数回の課題提出で出席点に代える。
 3. 経営学関連の講義がある程度履修しているほうが望ましい。
 4. 中間試験は行わず、中間レポートを実施する。ただし、課題提出の回数を多くして(5回以上)、中間レポートを中止する場合もある。

教科書

『1からの経営学』（第3版）	加護野忠男・吉村典久 編著	中央経済社	2640	9784502375217
----------------	---------------	-------	------	---------------

参考図書

『ゼミナール 経営学入門 第3版』	伊丹敬之・加護野忠男	日本経済新聞出版	3190	4532132479
『テキスト経営学（第3版）』	井原久光	ミネルヴァ書房	3520	4623051293
『経営学入門【ベーシック+】』	藤田誠	中央経済社	2640	4502133914

その他

プリント資料適宜
キャンパスクロスより受講生自身でダウンロードすること。
こちらからプリントなどの講義資料の配布は行いません。
<参考文献>
P.Fドラッカー ・上田 啓生 (翻訳) 『マネジメント』[エッセンシャル版]第49版 ダイアモンド社 2001
機原清則 『経営学入門(上・下)』(第2版) 日本経済新聞出版 2013
高澤光 『大卒1年生のための経営学』創成社 2019
高橋伸夫 『大学4年間の経営学が10時間でざっと学べる』 KADOKAWA 2019
小野正人 『イチから学ぶビジネス[改訂版] 高校生・大学生の経営学入門』創成社 2018

授業計画

授業計画 テキストの章を順に解説します 講義の進捗状況によって変更有

1. 企業経営の全体像
2. 経営学の全体像
3. 企業と社会
4. 企業とインフラ（金融資本・労働）市場との関わり
5. 企業とワットワット（製造・サービス）市場との関わり
6. 競争戦略のマネジメント（Part1）：基本的な考え方
7. 競争戦略のマネジメント（Part2）：違いを作る3つの基本戦略と仕組みの競争
8. 多角化戦略のマネジメント
9. 国際化のマネジメント
10. マクロ組織のマネジメント
 11. ミクロ組織のマネジメント
 12. キャリアデザイン
13. 経営学の広がり（Part1）：ファミリー社のマネジメント
14. 経営学の広がり（Part2）：病院組織のマネジメント
15. 企業経営の仕組み

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> W：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> E：グループワーク
<input type="radio"/> O：プレゼンテーション	<input type="radio"/> K：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> K：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

ケース（事例研究）を使用した、問題解決型思考の講義を目指す

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義で使用するスライドや資料はキャンパスクロスにアップしてあるので、自分でダウンロードして、予習・復習に使用すること。1週間前には講義スライドをキャンパスクロスにアップする予定。
ダウンロードは定期試験終了時まで可能にしているため、復習や試験勉強にも使用すること。講義資料や課題テーマについて準備や確認を行うことを前提として、予習は講義前2時間、復習は講義2時間は、時間をかけてほしい。
課題提出を求めているが、講義内容に沿った内容の課題テーマが設定されているので、課題を作成することが復習の代わりになる。
日常的に、新聞、ビジネス雑誌、Nihのビジネスニュースなどをチェックして、企業に関わるタイムリーな話題に接してほしい。また、参考文献は図書館に配置されているので、それらを活用してもらいたい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

卒業認定の方針に基づき、本講義は全学共通科目となっている。「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」として、この科目の重要性を理解し、単位を必ず取得する覚悟で受講しなくてはならない。
この講義は、今後4年間、専門科目を学ぶための経営学の基礎知識と考え方を修得することが目的であり、「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」となるための資質・能力を身につけていくための講義である。
専攻的には資料を履修することで、経営の仕組みや組織行動について経営理論に基づき考え、理解できるようになる。経営理論を用いた状況分析を通して情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力を伸ばし、論理的思考力をつけることができるようになる。また、新たな視点に触れることで創造力を高めることができるようになる。さらに、人物の関係性を分析して協力や信頼の関係を構築し、協同して物事を成し遂げる能力を身に付けることができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

演習でのIT機器の積極的利用およびITツール持ち込み許可を前提として以下を目指す。

- ・学生のモチベーションを上げる。
ICT教育で使用するITツールによって画像や動画を活用することで分かりやすい授業を行うことができ、学生の興味・関心を高め、学習に対するモチベーションが高まる。また教員からの一方通行の授業でなく、ITツールを使用した主体的・協同的な授業が出来ることも学生の学習に対するモチベーションを高める。
- ・学生も教員もストレスを感じず、効率的な学習ができる。
学生も教員も、テキストによる文字情報だけでは伝えないことを、画像や動画などで視覚や聴覚に訴えかける情報によって伝えることができるので、スムーズに効率的な学習を進めることができる。
- ・学生が授業に積極的に参加しやすくなる。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

不明な点は担当教員や教務部に必ず問い合わせること。
状況変化に合わせた対応に留意すること。
以下のオフィスアワーを利用して教員とコンタクトをとるように。
オフィスアワー： 研究棟 1階 111号研究室 月・水 12：10～12：50
問い合わせについては流科ポータルの電子メールでも対応する。